



カルチャートーク Creators@Kamogawa

日独のクリエイターが熱く語る！（日独同時通訳付）

2019年 **11月30日** (土) 15:00 ~

会場：ゲテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

入場無料 申込不要

Samstag, 30. November 2019, 15 Uhr
Goethe-Institut Villa Kamogawa / Eintritt frei

第1部

『場所の記憶』

Narrative Archäologie

京都やベルリンがよい例でしょうが、未開の土地でなければ、場所や風景にはさまざまな記憶が刻まれています。神話や伝説、栄光と悲惨、幸福と不幸……。災害や戦争など、後世にまでトラウマとして残る事件や事象も、そこには含まれます。音楽、美術、建築、文学、演劇、映画など多くの芸術の役割は、作品化するに値する出来事をこうした記憶からすくい上げ、未来へと語り継いでいくことではないでしょうか。建築と美術の間を往還するレジデントと、聖地の研究でも知られる宗教人類学者が、場所や風景と芸術との関係について議論を交わします。

小崎 哲哉 (司会、構成)

Tetsuya Ozaki (Moderator)

ミヒヤエル・ヒルシュビヒラー
(建築家、美術家)

Michael Hirschbichler
(Architekt, Bildender Künstler)

1983年生まれ。哲学と建築をベルリンやチューリッヒで学んだ後、ミュンヘンとチューリッヒを拠点に建築と美術の境界領域で活動する。作品は欧米各地での個展やグループ展で展示され、ローマやバリの滞在奨学金など数々の賞を受賞。執筆活動も行う。これまでバプアニューギニアやチューリッヒ等の大学で教鞭もとった。ヴィラ鴨川滞在中は、幽霊が多く登場する日本文化史の神話的背景や空間的実例などをリサーチする予定。
atelier-hirschbichler.com

© Matteo Fieni



植島 啓司
(宗教人類学者)

Keiji Ueshima
(Religionsanthropologe)

1947年東京生まれ。東京大学卒。東京大学大学院博士課程修了。NYニュースクール・フォー・ソーシャルリサーチ客員教授、関西大学教授など歴任。日本および世界の聖地の研究を続けている。著書『男が女になる病気』『分裂病者のダンスパーティ』『聖地の想像力』『偶然のチカラ』『世界遺産 神々の眠る「熊野」を歩く』『日本の聖地ベスト100』『処女神 - 少女が神になるとき』他多数。現在、京都造形芸術大学空間演出デザイン学科教授。
keijiueshima.net



**GOETHE
INSTITUT
VILLA KAMOGAWA**